

2023. 7. 19 (水)

小学校事前指導 ～小・中学校教育実習前に先輩から学ぶ～

文字記録作成 玉置ゼミ9期生 安田愛梨
由原希音
荒木歩華

【1】実習前について 石原先生

・やっておくといいこと (玉置ゼミ8期生 松村さん)

- 自己紹介(子ども用)は絶対、(大人用)も考えておく。決意を明確にする。
- 子どもと共通の話題になる知識をつけておく。
- 授業研究を先取りして行う。他の先生の指導案に目を通す。

・実習前の気持ち (玉置ゼミ8期生 新谷さん)

- 緊張 80% / 楽しみ 20%
- 授業で子どもの心を掴む方法がわからなくて不安になる。
→塾での子どもとの関わりを武器に

【2】実習中について 福地先生 玉置先生

・学校生活で大切にしたこと (玉置ゼミ8期生 安藤さん 澤本さん 松村さん)

- 挨拶(笑顔・大きな声)を大切にした。
→学校の人、地域の人

- 2日間でクラスの子ども全員と話して、名前を覚える。
→はじめは反応が薄くてもいずれ仲良くなれる。
- 実習生であるという意義を意識した。
→先生だけれど、距離が近い実習生だから見えてくることもある。

・実習で楽しかったこと (玉置ゼミ8期生 寺尾さん 伊藤さん 新谷さん 前野さん)

- 授業に参加できない子が挙手できると嬉しい。
→同じ実習校の仲間と協力することでより良い授業をつくる。
- 鬼ごっこが楽しかった。約束した遊びは必ずやる。
→若いからできること。思いっきり遊ぶ。
- 一生懸命考えた授業を楽しんで学んでくれると嬉しい。
→授業づくりの楽しさが分かる。
- 配属先以外の学級の子とも関わることができる。
→グラウンドや授業

・実習で辛かったこと (玉置ゼミ8期生 芝田さん 柴山さん)

- 1時間の授業には3時間の準備を。イレギュラーなことが起きると終わらない。
→せっかく時間をかけて、準備しても思うようにいかないことがある。
- 最終日に手紙と鉛筆をプレゼントしようとしたけど、渡せなかった。
→どんなことでも先生の許可をもらってから行動しないといけない。

・中学生との関わりで大切にしたいこと (玉置ゼミ8期生 前野さん 澤本さん)

- 授業中のコミュニケーションが大切。
→いつもクラスにいるわけではないからこそ
- 異性との関わりかたには、注意する。
→寄ってこない子とも適切な距離で話す。

・低学年との関わりで大切にしたいこと (玉置ゼミ8期生 安藤さん)

- 言葉づかいに気を付ける。
→普段の話し方ではなく、先生として話す。
- 約束を守る。守れない約束はしない。

・高学年との関わりで大切にしたいこと (玉置ゼミ8期生 柴山さん)

- 低学年に比べて積極性がないように感じる。

→しっかり関わると、子どもはみんな心を開いてくれる。

【3】実習で学んだこと 玉置先生

・授業づくりアドバイス (玉置ゼミ8期生 全員)

- 子どもの具体的な姿をイメージする。
→この授業が成功したらどんな発言が出るかをイメージ
- 子どもの実態に合わせた授業をつくる。
→子どもの苦手、得意を把握しておく。
- 最初は授業の記録もしっかりとメモする(授業観察)。
→そのメモをもとに授業づくりを行う。
- 子どもの反応を大切にする。
- 沈黙の時間を恐れずにつくる。
→沈黙は考えている証拠。沈黙の時間をとることも大切。
- 板書の練習をする。
→板書計画を撮影して手元に置いておく。
自分の中で見通しを立てることができる。

・教材研究

- こどもの疑問にもすぐに答えることができるようにする。
- 各活動の意図を考えて組み込む。
→グループ活動を考えずらい部分にいとると授業がスムーズに
- 子どもが頭を使う活動をたくさん組み込む。
→小さい自己選択 (だれでも参加できるようなもの)
- 聞いているだけの時間をつくらない。

【4】先生との関わりで学んだこと 石原先生

(玉置ゼミ8期生 伊藤さん 柴田さん 寺尾さん)

- 先生が大切にされていることをしっかりと聴く。
- 自信を持って子どもの質問に答えたいから、教材研究をしっかりとする。

・教材研究とは

- 言葉の意味を調べる。
- 子どもの既習事項を把握する。
- 指導案のつくり方をしっかりと教えてくれた。
→スムーズに指導案がつくれた。
- グループ活動の大切さ
→グループ活動のタイミングや、構成で授業もかわってくる。

・教師の背中をみて学んだこと

- 子どもと関わる時間を大切にしていた。
- 授業に少し早く来たり、笑顔を大切にしていた。
→笑顔と向き合う姿勢

- 子どもとの関わり方
→1人と親しくするとみんなが見ている。
→できないことはしっかりと断る。

- 授業のパターンの多さ（音読）
→丸読み、一斉読み、間違いをチェックさせる読み方

・コミュニケーションの難しさ

- 自分と先生の意見の違い
- 担当教師が怖かった。
→誠意をもって相談に行くことが大切
→実習生と現場の先生の認識の違い
→「なんで？」と思ったら聞いてみることも大切
→合わないなと思っても、心の距離をつめる努力をする

【5】実習後について 福地先生

・気をつけること（玉置ゼミ生8期生 伊藤さん）

- SNS。
→実習後も×。来年度の実習生のことも考える。

- リクエスト（サイン）を言われても軽々しくしない。
→サインしていいものなのか。

【6】最後に伝えたいこと 実習課から

- 身近な先輩の失敗談、正直な気持ちを生かして実習に取り組む。

・実習の評価について

- 授業の出来は関係ない。
- 提出物の遅れは低評価。
- 社会人として実習先の子どもや先生とコミュニケーションがとれないと低評価。

・教育実習生が来てくれるとうれしいこと

- 話ができること
- 実習生が来ると学校が活気付くのが嬉しい
→明るく元気に
- 友達になれる。
→子どもたちは実習生一人一人のことを知りたいと思っている。

・校長先生が先にお帰りになるとき

「本日も1日ご指導ありがとうございました。明日以降もよろしく願いいたします。」